



## 無所属 杉本 信之 議員

- ①外国人の子どもについて
- ②救急医療について
- ③野良犬・野良猫について

**質問①** 市内に9,500人の外国人がいて、今後も増加していくと思われる。小・中学校での現状と今後の対応はどうか。外国人学校にも公立学校にも行っていない子どもや、保育所での現状はどうか。

**答弁①** 学齢期の児童生徒は638人で、378人が市内の公立校に在籍している。そのうち167人が日本語指導が必要である。人的要員も含め系統的に学習支援ができるようにする。母国語も日本語も理解が十分でない「ダブルリミテッド」を出さないようにしていきたい。

**質問②** 二次救急での医師不足が言われているが、かかりつけ医の利用促進と合わせてどう考えるか。

**答弁②** 軽症の病気や怪我の人が二次救急の鈴鹿中央総合病院や鈴鹿回生病院にかかる人が多いので、両病院の医師への労働条件が過酷となり、病院を離れていく状況にある。かかりつけ医を持つことを啓発していく。二次救急調整会議でも訴えていく。

**質問③** 現状と減らす対策はどうか。ペット条例などを制定していく考えはあるか。

**答弁③** 鈴鹿保健所管内で昨年、犬は121匹、猫は313匹が捕獲、引き取られた。飼い主の愛護と管理の自覚徹底もあり、条例は慎重に検討していく。



野良猫



## 無所属 板倉 操 議員

- ①増える心の病への対応について
- ②在住外国人の子どもと学校(保育所・園)

**質問①** 保健所の機能縮小が言われている中で、精神保健のデイケア等の事業がなくなるのではとの不安が当事者やボランティアにある。市としての考えはどうか。保健福祉手帳の優遇措置が他市に比べ遅れている。タクシー助成や公的施設利用時の減免をする必要があると思うがどうか。

**答弁①** 保健所が精神保健に対する中心を担うことが今後も重要であると考えている。事業縮小がないよう要請していく。優遇措置については1級へのタクシー助成、

公的施設利用減免を実現していく。

**質問②** 現状分析し課題をはっきりさせる時期にきている。学校での日本語修得はすべての学力の基礎となるもので、基本であるが均一な指導研究がなく、必要な指導基準もないがどうか。就学前の子どもについては学校教育の中へ送り出す心構えを保護者に啓発し、意識改革をうながす必要があるがどうか。

**答弁②** 日本語修得の体系的なカリキュラムの導入についての検討、また実践研究を進めていく。修得プログラムの構築や教材の開発、学校における指導のあり方検討のための会議も立ち上げる。就学前については地域巡回指導や案内の配布、保育所等における就学援助の取り組みの強化拡大を図っていく。



## 諸派(日本共産党) 森川ヤスエ 議員

- ①通学路整備について
- ②本当の中学校完全給食実現に向けて

**質問①** 通学路の安全は子どもの命に直結する問題であり学校敷地を検討する時から視野に入れることを求める。また神戸中学校移転に伴う通学の安全のために歩道の整備を百々川交差点近辺、新しい敷地の北側道路共に整備すること。

**答弁①** 生徒の安全を守る通学路については、警察、学校、地元関係者等と協議を重ねながら整備を進めたい。県道部



県道四日市鈴鹿環状線

分については、県に対し暫定的な対策も含め、抜本的な歩道整備の早期着手を要請したい。

**質問②** ランチサービスは当面の課題としてスタートしている。検討委員会でも中学校給食を中長期的に検討することを求めている。市民の願いにまじめに向き合い新しく学校給食の検討委員会を設置することを求める。

**答弁②** 財政的な問題等、現時点では中学校給食の完全実施は困難であると判断しており、現在実施しているランチサービスについて、検証を加えながら継続する方向で考えている。アンケートでは、保護者は給食を望んでいる人が多いが、生徒は親の愛情のこもった手作り弁当を求めており、それに応えてあげることが親子の絆を強める上でも大切であると考えている。